

学校の共通目標

授業づくり	重点	生徒一人一人が、工夫されていて、分かりやすいと感じ取れる授業づくり。	中間評価	生徒意識調査では「先生の授業は分かりやすいと思う」に93%の生徒が「あてはまる」と答えた。	最終評価	
		本校における確かな学力「想像する力・挑戦する力・伝える力・発見する力・振り返る力」を身に付けさせる。		教師一人一人が授業改善について発表する11月の校内研修会に向けて準備をすすめている。		

教科の取組み内容

教科	学習状況（4月）	課題（4月）	改善に向けた取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果、各観点目標値を上回っており、おおむね満足できる状況であるが、全学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が目標値をわずかに下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統芸能・伝統文化の興味・関心を高めるために、適切な視聴覚教材等を選択し、活用する工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の力を身に付けさせる必要がある。そのために、「書く能力」が高いことを生かし、慣用句やことわざの学習や日本の伝統文化・伝統芸能の紹介文を書かせるなどの学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩・漢文を読み、解釈をすることで、故事成語、四字熟語、慣用句などの意味・成り立ちを理解させることができた。 俳句・短歌を詠み、毛筆で短冊に書く創作活動を通して、日本の伝統文化に触れ、理解を深めさせることができた。今後は日本の伝統芸能を学習し、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の力を身に付けさせる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果から、各学年ともに、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」目標値を上回り、おおむね満足できる状況であるが、「資料活用の技能」、「知識・理解」にかかわる設問については目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「資料活用の技能」の力を身に付けさせるために、授業内で資料の読み取りや資料を選択・活用して説明する活動を行う。 各時間の最後に授業内容を自分の言葉でまとめる活動を行うことで、表現力を高めるとともに、知識の理解と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、授業内で資料の読み取りや資料を選択・活用して説明する活動、各時間の最後に授業内容を自分の言葉でまとめる活動を行ってきたことで、「資料活用の技能」や「知識・理解」が向上した。このまま継続して取り組ませていく。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年では、全体的に目標値を下回っていて、特に「技能」の観点が大きく目標値を下回っている。その一方で、「知識・理解」の観点は目標値を上回っている。 第1学年では、全体的に目標値を下回っている。特に「技能」の観点が、目標値を大きく下回っている。「知識・理解」の観点では目標値に達するまでもう少しだった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに「技能」の定着が課題である。 第3学年では、「技能」の定着が不十分なため、技能を活用して解くことに課題がある。 第2学年では、学力の分布に二極化が見られ、「理解」や「技能」の定着が不十分な生徒への取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ともに基礎的な計算の反復練習を増やしていく。基礎的な計算の導入は1問1答形式で行う。特に第1学年では、基礎的な計算の例題の数を増やし、問題演習時に自力で解くことができる生徒を増やす。 定期的に小テストを行うことで、生徒の定着度を確認する。定着が不十分な場合は、課題を与えるなど、さらなる定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「技能」を定着させるために、基礎計算の反復練習を行い、導入では確認小テストを単元ごとに行っている。今後も継続してさらに多くの生徒の定着を図れるようにようにする。 関数領域において、ICT機器を効果的に活用することで、生徒の視覚的な理解を促すことができた。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、全体的に目標値を下回っているが、自然現象への知識・理解の観点では、区の平均を上回っており、科学的な思考・表現では、全国平均も上回っている。 第2学年では、全体的に目標値を下回っているが、観察・実験の技能に関しては、比較的、高い得点が取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、昨年からの指導により、一定の改善が見られる。今後の課題は知識の定着である。特に基本的な用語を忘れていくことが多い。 第2学年は実験に良く取り組み、技能も高いが、実験結果を知識として定着させたり、応用させたりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、副教材等を利用し、第1、2年の復習を行う。第3学年の内容についても、ワークシート等を使い、知識を定着させる。 第2学年は、実験の充実を継続しつつ、実験のまとめを丁寧に行い、実験結果を、知識や法則性につなげられるよう指導する。ワークシート等を使い、知識を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、副教材を利用して、10月までに1、2年の復習を行った。2月頃から3年間の総復習を行う予定である。 第2学年は、実験後のまとめを丁寧に行い、知識の定着を図っている。 第1学年は、基礎・基本を重視して、丁寧な授業を行ない、知識の定着を図っている。 	
英語	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと、読むこと、書くこと」各領域について、目標値を上回ることができている。 各領域ともにおおむね満足できる状況であり、特に「書くこと」については大幅に上回っている。ただ、集団として、目標値を上回っているが、中には基礎が身に付いていない生徒もいるので、個に応じた対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話の内容を聞き取って資料をもとに答えること、対話の流れに合った英文を再生して書くこと、長文の内容を理解し感想や賛否およびその理由を書くことに課題がある。 基礎・基本の定着に差が生じている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読む力を伸ばすために、豊かなインプットを与え、教科書以外にも様々な英文を読みとる機会を十分に与えていく。読んだあとの活動として、感想や賛否およびその理由を書く課題を与える。 副教材を、毎回の授業で課題として出し、家庭学習に取り組ませて基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 副教材を活用し、授業開始前のウォームアップで読む活動を行っている。また、読みとる機会を与え、読んだあとに文章を書かせる活動を繰り返している。さらに絵を見て英文を考えさせる活動も行い、思考・判断力を向上させている。 基礎・基本の定着のために、各学年とも、単語や基本文法の課題を家庭学習として出している。 	